

2月14日 校長講話「わすれられないおくりもの」

今日は放送室から校長講話をします。放送室には、各学年から1人ずつ、お友達に集まってもらいました。

初めに、6年生との楽しかった思い出を話してください。

「合唱団でなかよく歌ったことです。」
「ほうきのはき方を教えてくれました。」
「ボーカルアンサンブルで、一緒に歌って銀賞をとれたことです。」
では、6年生はどうですか。
「1年生と焼きいも大会をしたことが楽しかったです。」



これから、「わすれられないおくりもの」の絵本を読み聞かせします。

わすれられない おくりもの スーザン・バーレイ作 小川仁央 訳

あなぐまは、ひとりひとりに、知恵や工夫を残してくれました。その豊かさは、あなぐまを失った悲しみを消してくれました。

6年生は、1年生から5年生にたくさんのことを残してくれたあなぐまのような存在です。

みなさん、6年生が教えてくれたことはどんなことですか。

「そうじを、やさしくていねいに教えてくれました。」

「縄跳びができなかったとき、やさしく教えてくれて、できたとき、『やったね。』って言うてくれました。」

「けん玉を教えてくれたので、できるようになりました。」

「運動会のリレーの時、走り方を教えてくれて、うれしかったです。」

「委員会の引き継ぎの時、不安でしたが、『大丈夫だよ。絶対いけるよ。』と励ましてくれました。」

では、6年生から、どんなことを伝えたいか教えてください。

「1年生から5年生は、学年が1つ上に上がるので、しっかり心の準備をして、残りの日を無駄に過ごさず、しっかり過ごしてほしいです。」

1～5年生は、6年生が残してくれたものをしっかりと受け継ぐ。6年生への感謝の気持ちを持って残り22日間を過ごしましょう。

6年生は、自分たちがいなくなっても、在校生が楽しい充実した学校生活を送れるように、何を残すかを考えて過ごしていきましょう。